



春

京都御苑百三十年 ～幻の公家町をしのぶ 名木のその後～

小沢 晴司



自然はわれらを われらは自然を

絶えまない人と自然の連携を象徴するメビウスの環。この期待される長い活動のシンボルマークに表現されています。

発行人
〒602-0881 京都市上京区
京都御苑3番地
☎075-211-6364
財団法人 国民公園協会
京都御苑 木村博司
編集
白川書院
監修
環境省京都御苑管理事務所
本紙は100%再生紙を使用しています。

京都御苑百三十年
京都では、今年、源氏物語が記録(紫式部日記)の上で確認されてからちょうど千年を迎えることから、「源氏物語千年紀」と称し、関係事業が様々に展開されます。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。
「寺町」の城下町でもみられたが、京都にしか存在しないのが京都御苑と公家町である。



車還櫻

京都御苑の紫宸殿や清涼殿等のたたずまいは、源氏物語が描かれた当時の宮廷の様子を彷彿とさせ、御所を囲む樹林と苑路も古人の夢の世界へ誘うプロムナードとなることでしょう。

この緑濃い空間の成立はそう古いことではなく、幕末期まで存在した公家町を解体する宮内省と京都府庁による大内保存事業を契機とします。事業開始間もない明治十一年十二月、京都府告示で「御苑」の名称も決定されます。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。その命名とともに整備されてより百三十年になります。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。その命名とともに整備されてより百三十年になります。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。その命名とともに整備されてより百三十年になります。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。その命名とともに整備されてより百三十年になります。

今年、京都御苑がその命名とともに整備されてより百三十年になります。その命名とともに整備されてより百三十年になります。

りません。苑南部の閑院宮邸跡や茶室拾翠亭、苑北部中山邸跡の明治天皇の産屋、近衛池や旧桂宮邸内の庭園遺構そして外周九御門。なお御門のほとんどは内保存事業以前、より御所近くにあったのが移されたものです。

昭和三十七年(昭和)の宮内省高橋氏の稿(2)と昭和三十年の初代京都御苑小川所長によるもの(3)です。各稿冒頭は当時の状況を想像させて興味深く、多少長くなりながらも一部引用します。

昭和三十七年(昭和)の宮内省高橋氏の稿(2)と昭和三十年の初代京都御苑小川所長によるもの(3)です。各稿冒頭は当時の状況を想像させて興味深く、多少長くなりながらも一部引用します。

昭和三十七年(昭和)の宮内省高橋氏の稿(2)と昭和三十年の初代京都御苑小川所長によるもの(3)です。各稿冒頭は当時の状況を想像させて興味深く、多少長くなりながらも一部引用します。

孝明天皇安政二年二月十四日近衛第行幸遊ばされ終日咲誇る櫻を賞し給ひ且つ右大臣近衛忠熙公に宸筆の御製三十一首を賜つて居る」とあり、昭和三十年「残念ながら往事の絲桜は一株も無い。高橋氏当時植えられたと覚しき枝垂桜六株元気に成木、何れも樹齢二十年くらい」と記されています。



黒木の梅

自然保護憲章

自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう。
自然に学び、自然の調和をそこなわぬようにしよう。
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう。

尚二三を追記する事としよう。
小川氏昭和三十年の稿に曰く「戦時中御苑の樹木、芝生の手入れ出来なかつたことは無理からぬところであるが、食料増産寄与のため適宜開墾しても差支えない」といふ、宮内大臣より京都府へ許可があり、また新炭自給の目標であつた等正に、危険期を経て参つたのである、終戦後多少の経緯があつたが国営公園として、厚生省国立公園部が管理をしている現在、これ等の名木類はどうなつてゐるかを御報告申上げて見たい。

昭和三十七年「銀杏、樟二本、榎と四本並んだ大木があり、就中見事

昭和三十七年「昔清水谷の家が吉田村から御苑内へ移轉の時吉田神社の御屋根に生えた芽生を、鎮守の神木として植ゑられたものと傳へている」とあり昭和三十年「昔と変わらぬ名木の貫禄十分」とあります。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十七年「一堺町御門見付芝地に大きな庭石があり其後あたりから北に真直に四本並んだ大木で、元御邸内西側土塀沿ひに並植されたものである」とあり、昭和三十年「現在は三本並んで、御苑正面に莊厳さを保っている」とあります。今は数本の黒松があり、大木が二本認められます。

昭和三十七年「久邇宮御創建の朝彦親王が栗田青蓮院から服飾遊ばされて、しばし中川ノ宮を稱せられ、後此地に御殿を賜はつて賀陽ノ宮を稱せられたが夫は御邸内に有つた此かやの大木にお因み遊ばされたとも申して居る」とあり、昭和三十年「小山西土手側にあり榎等の大木と叢立になつてゐるため苑内より見えなくまた土手の樹に妨げられ四方からも見えなく、多少残念である」とあります。今は現地に確認できません。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十七年「久邇宮御創建の朝彦親王が栗田青蓮院から服飾遊ばされて、しばし中川ノ宮を稱せられ、後此地に御殿を賜はつて賀陽ノ宮を稱せられたが夫は御邸内に有つた此かやの大木にお因み遊ばされたとも申して居る」とあり、昭和三十年「小山西土手側にあり榎等の大木と叢立になつてゐるため苑内より見えなくまた土手の樹に妨げられ四方からも見えなく、多少残念である」とあります。今は現地に確認できません。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十七年「久邇宮御創建の朝彦親王が栗田青蓮院から服飾遊ばされて、しばし中川ノ宮を稱せられ、後此地に御殿を賜はつて賀陽ノ宮を稱せられたが夫は御邸内に有つた此かやの大木にお因み遊ばされたとも申して居る」とあり、昭和三十年「小山西土手側にあり榎等の大木と叢立になつてゐるため苑内より見えなくまた土手の樹に妨げられ四方からも見えなく、多少残念である」とあります。今は現地に確認できません。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。

昭和三十七年「凝華洞ノ松」と筋向の芝地内で二本丈け葉透し手入をした見事な赤松。道路間近のは鶴松で大炊御門家址に當り其西に見ゆるは龜松で五辻家址に當る」とあり、昭和三十年「相当な老木で見事であつたらしいが今はそれらしいものは見あたらぬ」とあり、今も見当りません。